



『ロータリーに輝きを』 LIGHT UP ROTARY

RI会長 ゲイリー・C.K.ホアン 第2590地区ガバナー 大野 清一

川崎中原ロータリークラブ会報

KAWASAKI NAKAHARA R.C. WEEKLY/2014~2015

会長・小林 正樹 幹事・高瀬 建夫 会場監督・若狭 滋則 会報委員長・都倉 八重子

事務所・〒211-0063 川崎市中原区小杉町 3-70-4 ホーユウパレス武蔵小杉 104

TEL.044-722-7282 FAX.044-722-0066 E-mail:info@nakahara-rc.com

◆例会場 ホテル精養軒 木曜日 PM12:30~(第2週 AM7:30~)TEL:044-711-8855(東横線 武蔵小杉駅徒歩3分)

第1297回 (本年度26回)

平成27年1月22日(木)

ロータリー理解推進月間

点 鐘 小林 正樹 会長

司 会 松川 正二郎 会場監督

唱 和 「四つのテスト」

会員出席報告 戸張 裕康 出席委員

本日	会員数	出席	欠席	出席率
	24名	16名	8名	76.19%
前々回(1月8日)	欠席4名	Make up 1名		95.45%

本日の欠席者：宮崎会員、黒澤会員、古越会員、徳安会員、高木会員

お客様紹介

岡部 信彦先生(ゲストスピーカー)

荒井 稔様

卓 話 岡部 信彦先生

昭和21年、東京都生まれ。東京慈恵会医科大卒。同大小児科助手、WHO西太平洋地域事務局(フィリピン・マニラ)伝染性疾患予防対策課長、同大小児科助教授、国立感染症研究所感染症情報センター長などを経て平成24年4月から現職。

川崎市健康安全研究所長

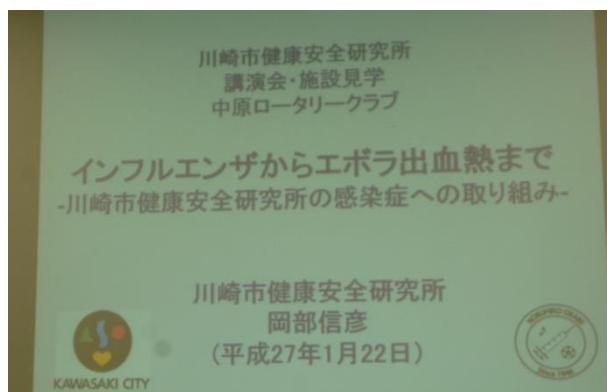
厚生労働省新型インフルエンザ専門家会議委員長

内閣官房新型インフルエンザ等対策有識者会議会長代理

厚生労働省厚生科学審議会予防接種・ワクチン部会会長

内閣府食品安全委員会微生物・ウイルス専門調査会座長

WHO西太平洋地域事務局ポリオ根絶監視委員会副議長



インフルエンザからエボラ出血熱まで 川崎市健康安全研究所の感染症への取り組み



私はもともと小児科で感染症に長く関わって参りましたが、今日は感染症の話と合わせてこの研究所の宣伝をさせていただくつもりです。

この研究所はどのよ

うな事をやっているのかをお話しさせていただきます。川崎市衛生研究所は平成25年3月より川崎区殿町に移転し、名称も川崎市健康安全研究所と変更して新たなスタートを切りました。「衛生研究所」は、都道府県や政令指定都市などに設置され、全国で約80か所を数えます。衛生研究所には、食品や水、医薬品や家庭用品の安全性のチェックを行う理化学部門、感染症、食中毒などの病原診断を行う微生物学部門、感染症情報の解析を行う感染症情報センター部門などがあり、「市民の健康を守る」をキーワードとし、鳥インフルエンザH7N9やMERSなどの新たな感染症、サリン事件や炭疽事件のような時の緊急検査など、衛生研究所はまれな「異常事態」の検査にも備えています。これらの調査や検査は突然にできるものではなく、日常の地味な技術の維持や継承、そして新たな技術や原因探究のための研究を、医療機関や保健所などと連携して行って、初めてできるものなのです。

新しいサイエンスの町として急速に変化しつつある殿町に移転した当研究所は、近隣の実験動物中央研究所、あるいはこれからの隣人となる国立医薬品食品衛生研究所をはじめ、他研究機関との連携により、公衆衛生をベースとした国際的にも通用する研究部門の発展も図ろうとしています。この点は、他の衛生研究時にはないユニークな存在になろうかと思えます。

皆様のさらなるご支援、ご指導を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

デング熱の経験を五輪に生かせ

川崎市健康安全研究所所長・岡部信彦氏

-産経新聞より-

夏から秋にかけて日本を騒がせたデング熱。デングウイルスに感染して起こる急性の熱性感染症で、マラリアや日本脳炎などと同様に蚊が媒介して広がる。8月27日に海外旅行歴のない患者が確認されて以降、150人以上の患者報告がある。これまでも海外の流行地で感染、帰国してから発症する患者は毎年100人前後、このところ200人前後と増加しているが、国内で感染・発症した患者は過去60年以上報告がなかった。

筆者がWHO（世界保健機関）西太平洋地域事務局（フィリピン・マニラ）で働いていたときの担当にデング熱対策も含まれていた。デング熱は熱帯・亜熱帯のアジア地域では熱が出ればまずデング熱かマラリアを疑うほどよくある、しかし注意される感染症だ。

日本国内で感染したかどうかは国内にデングウイルスを保有した蚊がいるかどうかがかギになる。今回は東京・代々木公園周辺でウイルス保有の蚊（やぶ蚊）が見つかったのを皮切りに、新宿中央公園や千葉市など10カ所以上の場所でみつかった。ただ、これまでに国内各地で行われていた蚊のサンプリング調査では蚊からデングウイルスは見つかっていなかった。

川崎市では10年以上にわたって蚊のシーズンに週1回、市内の保健所や公園などで蚊を採集し調べ続けている。これまでに日本脳炎ウイルスが見つかったことはあるが、デングウイルスやウエストナイル熱は陰性。手間も予算もかかることから「調査は不要ではないか」とする声もあったようだが、結局は続けられている。こうした地道な調査を継続して行うことが感染症対策には不可欠だ。

デング熱に感染すると、急に高熱が出てだるくなり、骨・関節痛などの症状が出る。約半数に発疹（ほっしん）が出るほか、血液中の血小板が減少することがある。

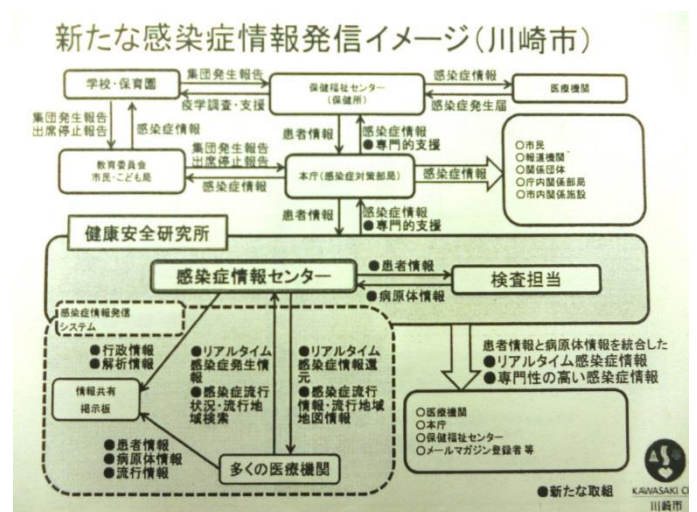
デングウイルスに感染しても、多くの人は症状は出ないか、症状が出て自然に回復するが、まれとはいえ血小板数減少に伴う出血症状や、冷や汗やむくみ、意識がもうろうとするなどのショック症状は黄色信号だ。適切な治療が行われないと死に至ることもある。しかし、日本の医療機関では出血傾向やショック症状への対処は十分可能であり、先進国での致死率は途上

国などの10分の1から100分の1とみられる。なお今回の国内発症例で、重症化例はない。

ただ、一般的なデング熱治療の注意として、解熱や痛み止めとしてアスピリン類は使ってはいけない。アスピリンには血小板の作用を弱くする働きがあり、デング熱で血小板が減少し出血しやすい状態に拍車をかける可能性があるためだ。鎮痛解熱剤にはアセトアミノフェンが安全性が高い。

今回のデング熱発生は、病気の重症度のレベルから言えば、少し騒ぎ過ぎのきらいはあったように思うが、これまで日本になかった病気が海外から持ち込まれたときにどうすべきかのいいシミュレーションになった。

2020年の東京五輪でデング熱が出たらどうするのか。アジアでは珍しくない病気だけに、患者や蚊が見つかった公園・会場は閉鎖するのか、競技は続けるのか、殺虫剤はどこまでまくのかなど、考えることはいろいろある。エボラ出血熱、MERS（中東呼吸器症候群）など日本に未上陸の感染症にもどう対応すべきか、常に備えておく必要がある。



ニコニコ報告 戸張 裕康 親睦委員

山本 剛会員

正月早々ハワイに行って来ました。

「みんなニコニコ」

本日は岡部先生のお話、しっかり聞きましょう。

小泉 正博会員・若狭 滋則会員・戸張 裕康会員

会田 公雄会員・市川 功一会員・高瀬 建夫会員

歌崎 勅男会員・河合 東会員・都倉八重子会員

島田 叔昌会員・小林 正樹会員

ニコニコボックス	本日	13,000 円	累計	497,000 円
記念日ニコニコ	本日	0 円	累計	60,000 円